

地域医療についての調査



国の医療計画

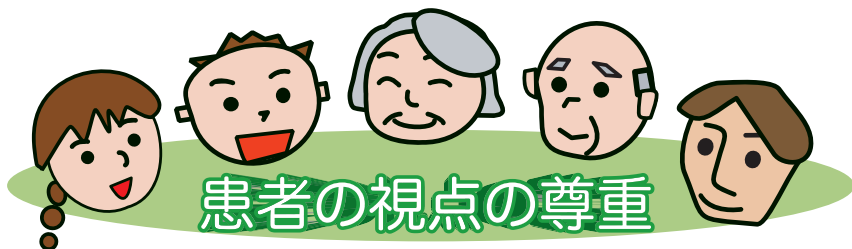
医療計画制度の目的に、「地域における適切な医療の確保」と「医療提供体制に係る地域格差の是正」があります。それに、「患者の望む医療の実現」と「質が高く効率的かつ検証可能な医療提供体制の構築」を新しく位置づけるべきであると言われています。その理由には、「患者の視点の尊重」があげられます。

厚生労働省が 2003 年 8 月に公表した「医療提供体制の改革のビジョン」における大きな柱は患者の視点の尊重です、患者が望む医療の実現と、患者の選択を通じて医療の質の向上と効率化が図られることが期待されています。

- (1) 医療機関情報の提供の促進により患者、国民が容易に医療に関する多様な情報にアクセスできること
- (2) 診療情報の提供の促進により、患者の選択を尊重した医療が提供され、自覚と責任をもって医療に参加すること
- (3) 科学的根拠に基づく診療ガイドライン整備により、患者は必要な情報を得た上で治療を受けることができること
- (4) 医療安全対策が徹底され国民が安心して医療を受けることができること

モデル事業

ドルフィンプロジェクトとは、熊本・宮崎にて共同で実運用中の地域医療情報連携事業です。実患者において運用されています。センターに共同利用型サーバーを置き、病院、診療所、薬局、検査センター、患者の間で医療情報の共有・連携を実現しています。



地域医療の現状

渡島地域の医療の現状では、大病院に初診患者が集まる傾向があります。大病院に初診患者が集まることで、大病院でしか扱わない検査や治療を受けたい患者までが、長い待ち時間を過ごさなければならない事態が起きています。その理由について、市民や医療従事者へのインタビュー調査を実施すると、大病院にたくさんの診療科があることで「大病院に行けば大丈夫、安心だ。」と、多くの人が考えていることがわかりました。

これによって、大病院への負担が増加しています。



長い待ち時間

渡島地域



渡島地域

函館市を中心とした渡島半島地域のことです。函館市と八雲町を除いた地域では医師数が全道水準に満たないなど、医療の需給に地域格差が存在します。

地域医療への取り組みは、一部の医療機関間での紹介状などの病診連携が行われております。